前門さまご夫妻 被災地見舞う

熊本、福岡、佐賀14カ寺　門信徒、寺族を励まされる

前門さま、前裏方さまご夫妻は7月26、27日、熊本地震で被災した熊本県益城町、熊本市など熊本教区の11カ寺（4組）へのお見舞い、助け合いということが欠かせないと思いました。各寺でお言葉を述べられ、住職、門信徒の話に耳を傾けられた。

前門さまご夫妻は、瓦がすべて下ろされ、ご本尊や仏具が避難している本堂に入られ、時には参加者の元まで歩み寄られ膝をつき合わせて励まされた。門信徒から「生きていく力をいただいた」と感激の声が聞かれた。

本堂全壊の被害を受けた益城町・壽徳寺（河邉裕司住職、**写真上**）では、前門さまは「皆さまの当時の体験は、想像もできないことと思います。ご苦労の中、お寺と共に歩んでくださること、有り難く感じさせていただきました。いかなる時も、阿弥陀如来さまの智慧と慈悲のおはたらき、南無阿弥陀仏に支えられて生きていくということに変わりはありません。人間同士の支え合い、助け合いということが欠かせないと思いますが、そこに、阿弥陀さまがいつも心配してくださっているということを、ぜひ心に留めていただきたい。今後の在り方も、ご住職と共に話し合い、よりよい方向を見出していただければと願っております」と語られた。

また、熊本組の西光寺（熊本市中央区）では、限部了住職が被害状況を報告。「震災から3カ月が過ぎましたが、いまだに罹災証明すら発行されていない寺院もあるなど、復興とはほど遠く、ご門徒の皆さまも被災されていて修復聚志を依頼できない状況です。ご門徒の方々の生活が安定した後に、お寺の復興を進めたい」と語った。

普賢寺（菊城淳真住職、同市中央区）でお見舞いの場に出た、同寺の益城町馬水地区の世話人・村上徹さん（75）は「農家である私たちは隣近所のつながりが強い中で生きてきたが、仮設住宅の生活はつながりもなく窮屈です。そのような中で前門さまご夫妻のお見舞いは、とても有り難く、力になりました」と感想を語った。

◇

前門さまご夫妻が見舞われた場所は次の通り。▽26日＝【熊本教区】緑陽組（熊本市南区・雲晴寺）、託麻組（熊本市南区・大福寺）、壽徳寺（益城町）、金光寺（御船町）、安楽寺（熊本市南区）、崇専寺（同東区）、浄専寺（同南区）、普賢寺（同南区）【福岡教区】西方寺（福岡県柳川市）

▽27日＝【熊本教区】【佐賀教区】本願寺佐賀教堂（佐賀市）、光西楽寺）、熊本組（同中央区・西光寺）、泰養顕寺（佐賀県神埼市）

熊本市東区の崇専寺。前門さまご夫妻は、倒壊した本堂を解体し、更地となった場所で、門信徒や寺族を励まされた